

1. はじめに
2. 機能紹介
3. Windowsの各バージョン
4. タッチスクリーンでの操作
5. Windows8を利用してみて

1. はじめに

Windowsは、MicrosoftのMS-DOSに代わるOSとして登場しました。
主にアイコンとマウスによって直接的に操作できるGUIや複数のアプリケーションを同時に実行できるマルチタスク機能や、実行中のアプリケーションをウインドウ単位で表示し、いつでも自由に作業を切り替えることができるウインドウシステムなどを特徴としています。

Windows8では、Windows95以来、17年ぶりに、このスタートメニューがなくなり、「Windows」の名前の元にもなっているウインドウそのものや、その中に表示されているアイコンの存在が目立たなくなった。
代わりにカラフルな「タイル」で並べた「メトロ」という操作画面が主体となった。

2. 機能紹介

1) Windows Defender

Windows Defenderは、スパイウェアおよびその他の不要なソフトウェアである可能性があるソフトウェアによって引き起こされるポップアップ表示、パフォーマンスの低下、セキュリティ上の脅威から、コンピュータを保護することで、生産性を維持するための無料のプログラムです。

2) ISOファイルのマウント

7ではISOファイルの光学メディアへの書き込みをサポートしていましたが、8は仮想ドライブとしてマウント可能になりました。特に光学ドライブをもたないウルトラブックなどで便利な機能です。

3) USB3.0を正式サポート

USB3.0を正式サポートし、OSインストール時に自動でドライバーを組み込むようになりました。また、高速転送モード「UASP」をサポート。UASP対応の外付けHDDケースなどを利用することで、超高速な読み書きが行えます。

4) PCのリフレッシュ

メーカーPCに搭載されたリカバリー機能のように、OSを初期状態に戻せる「PCのリフレッシュ」機能を新搭載。Windows7の「ファイル回復」とは異なり、ユーザーが作成したファイルや個人設定、ストアアプリを残したままOS全体を初期化できます。

3. Windowsの各バージョン

1	1993年	Windows NT	ビジネス向けに改良
2	1995年	Windows 95	マウス操作の簡易化、現在の基盤となるウインドウ構成
3	1998年	Windows 98	インターネット接続の簡易化
4	2000年	Windows 2000	ハードウェアのインストールの簡易化、さまざまなデバイスに対応
5	2001年	Windows XP	外観の一新、パフォーマンスの改良
6	2006年	Windows Vista	ユーザーアカウント制御
7	2009年	Windows 7	Windowsタッチが登場
8	2012年	Windows 8	Windowsストアが登場
8	2014年?	Windows Blue	検索機能の強化、大幅な機能変更がされるらしい。

4. タッチスクリーンでの操作

画面のタッチ操作で代表的なものは以下の通りです。

タップ	画面を軽く叩く。タップを素早く2回繰り返す操作をダブルタップという
ロングタップ	一定時間画面に触れてから離す操作のこと
フリック	画面を軽く払うように指を動かし、画面内のページや項目を次へ移動する操作のこと
ピンチイン	2本の指で画面上の操作対象をつまむように動かし、画面を縮小される操作のこと
ピンチアウト	画面上の操作対象を広げるように2本の指を離していき、画面を拡大される操作のこと
ストレッチ	2本の指で画面に触れてから指を互いに遠ざける操作のこと
スワイプ	画面に触れた状態で指を滑られる操作のことである。主に画面のズームを行う操作のこと
スワイプアップ	画面にタッチした指を上方向に滑らせる操作のこと
スワイプダウン	画面にタッチした指を下方向に滑らせる操作のこと

5. Windows8を利用してみて

折角なので、タッチ操作でWindows8スタイルで利用してみましたが、アプリを起動後、ホームに戻る方法がなかなかわからず(※画面の右端にポインタを移動)、苦戦しました。
また、なかなかスワイプの操作に慣れていないので、微妙なサイズに変更されてしまいます。